

妖怪とは、昔の日本人が病や災いの原因が分からず、「妖怪の仕業」としたことで生まれました。

まわりが海に囲まれ、山地も多いため、自然現象による災害が多い日本だからこそ生まれた考えです。

いわば妖怪というのは、人間が分からないものや目で見ることができないものに対して考えをめぐらせた結果であり、日本人の想像力の賜物であると考えられます。

しかし、現代では科学の進歩により、病や災いなどの謎はほとんど解明され、妖怪の存在を信じる者はいなくなってしまいました。昔のような想像力は失われ、そういった意味での日本人らしさは薄れてしまっているように感じられます。

yo-kAIについて。

科学によって消えてしまった妖怪を科学によって蘇らせることを考えてみます。

現代における最先端の科学がAIであると考え、AIによって妖怪をつくりあげます。

yo-kAI〈妖怪〉と名付けてみます。

yo-kAIは天井の隅や壁、傘の下など様々な「日常のきっかけ」に潜んでいます。一度yo-kAIを見たあなたの想像力は拡張され、あなたの普段の風景でもあなたにとっての妖怪が想起されることでしょう。

本提案では、6体のyo-kAIを制作しました。

敷地は私たちの日常です。

1. 日常のきっかけを探す

日常の風景の中に、妖怪がいそうなところ－日常のきっかけ－を見つけ、そのイメージに沿った日本の妖怪を探す。

2. プロンプトを生成する

ChatGPTに「日本の妖怪である〇〇の見た目を表すプロンプトを生成してください。stabele diffusionで用います」と入力し、画像生成用のプロンプトを生成してもらう。

3. AI 画像を生成する

そのプロンプトを画像生成AIであるstable diffusionに入力し、AI画像を生成する。

4. 画像から 3D データを生成する

そのAI画像を3D生成AIであるAiuniAIで3Dデータを生成する。

5. 3D データを編集する

Blender(モデリングソフト)で3Dデータの欠損部分を修正し、日常のきっかけに沿うように編集する。

6. 3D プリンターで出力する

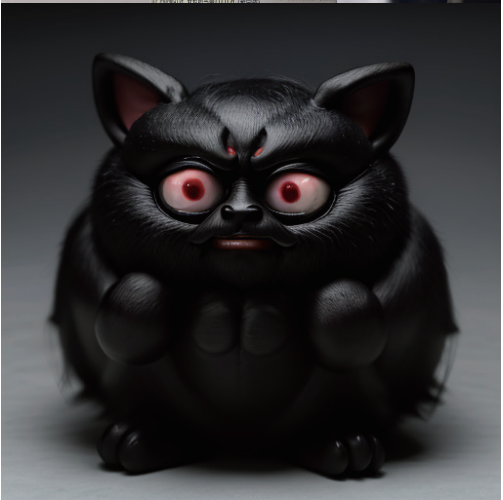
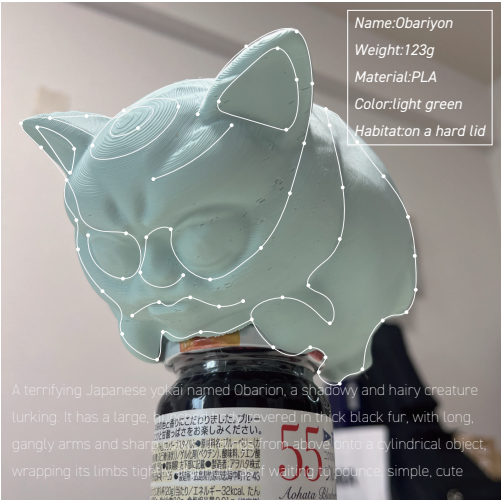
作成した3Dデータを3Dプリンターで出力する。



〈あかなめ〉

日常のきっかけ：
こぼれてしまった液体

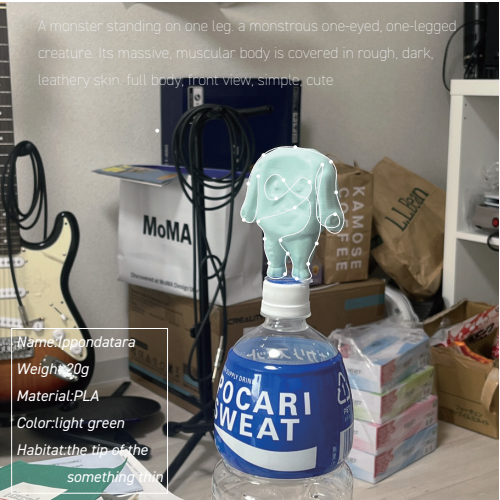
作品説明：
意図せず床にこぼれてしまった水やスープなどの液体。もったいないなと思ってしばらく眺めていると、何かがその液体を舐めにやってきそうだなと考え、制作しました。モチーフとした妖怪は、人の家に忍び込み、お風呂の垢を舐める妖怪「あかなめ」です。



〈おばりよん〉

日常のきっかけ：
固く締められたジャムの蓋

作品説明：
どれだけ力を込めてもなかなか開かないジャムの蓋。これはきっと開かないように何かがつく締めていると考え、制作しました。モチーフとした妖怪は、人の背中にしがみついた妖怪「おばりよん」です。



〈一本だたら〉

日常のきっかけ：
細い瓶やペットボトル

作品説明：
細く長い瓶やペットボトル。少しの衝撃でグラグラと揺れ、バランスを保ちます。その先端にはバランスを取りながらゆらゆらと揺れ動くなにかがいそうだなと考え、制作しました。モチーフとした妖怪は、一本足で飛び跳ねる「一本だたら」です。



〈からかさ小僧〉

日常のきっかけ：
開いたまま干してある傘

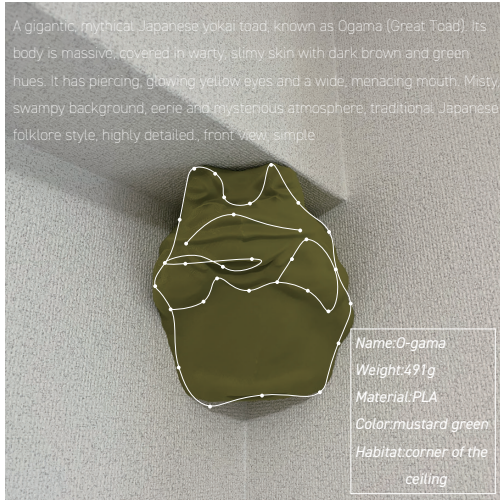
作品説明：
雨が降った後、乾かすために広げられた傘が廊下に置かれてあることがあります。その傘の下になにかいそうだなと考え、制作しました。モチーフとした妖怪は、傘から手足が生えている妖怪「からかさ小僧」です。



〈お歯黒べったり〉

日常のきっかけ：
壁の穴やしみ

作品説明：
点が3つあると顔に見えるシュミラクラ現象。壁の穴やしみを見たとき、壁に埋め込まれた大きな化け物に見え、そういった想像を促すよう、口を制作することを考えました。モチーフとした妖怪は、口しかない顔で人間を驚かす妖怪「お歯黒べったり」です。



〈大がま〉

日常のきっかけ：
天井の隅

作品説明：
天井の隅などの三つの面によって囲まれた場所。じっと見つめているとそこに引力を感じます。引力がはたらくこの場所には何かを吸い込む妖怪がいそうだなと考え、制作しました。モチーフとした妖怪は、大きな口で人やエネルギーを吸い込むとされている妖怪「大がま」です。